



南郷

札幌市立南郷小学校 学校だより 第10号
令和6年12月25日

【学校電話】011-861-9305

【学校ホームページ】

<https://www.nango-e.sapporo-c.ed.jp/>

『あたりまえ』に感謝することを『あたりまえ』に

校長 関根治彦

右の詩は、井村和清さんという内科医の方が、亡くなる直前に家族へ残した手記の中で綴った詩「あたりまえ」の一節です。この手記は「飛鳥、そしてまだ見ぬ子へ」という題名で書籍化され、映画やドラマ化がされているので、ご覧になった方もいらっしゃると思います。

今から6年前の2018年(平成30年)9月6日に胆振東部地震が発生し、札幌市も大きな被害を受けました。南郷地区でも大規模な停電となったと聞いています。蛇口をひねれば水がでる。スイッチを入れれば灯りがつく。お店に行けば、欲しいものが手に入る。学校へ行って勉強したり、友達と遊んだりする。食事をしたり、テレビを見たりという日常の「あたりまえ」を、わずかな期間ではありますが、私たちは失いました。あたりまえのことが本当にありがたく感じました。しかし、悲しいかな井村さんの詩にあるように、失ったときに実感できるのです。

みんなあたりまえのこと
こんなすばらしいことを
みんなは決してよこばない
そのありがたさを知っているのは、
それを失った人たちだけ
なぜでしょう あたりまえ

南郷小学校や地域に電気や水道が戻り学校を再開することができた背景には、多くの人たちの支えがあったことを、少しでも子どもたちに残るようにできればと考えていました。そして、日常の「あたりまえ」を見つめ直し、「あたりまえ」に生活できることのありがたさや、多くの方々の支えにより成り立つ「あたりまえ」に感謝することの大切さを、少しでも子どもたちに伝えることができればと考えていました。

そんな中、ネットニュースにMBS(毎日放送)ニュース「一時停止率9割…「危険な横断歩道」を「安全」に変えた小学生らの『おじぎの習慣』(2021年10月13日)」が出ていました。

Youtubeでも公開されております。上記題名を検索バーに入力するか、右のQRコードからジャンプしてみてください。2年前まで一時停止率が2割ほどの危険だった横断歩道が、子どもたちがお礼のお辞儀をするようになってから、一時停止率9割の安全な横断歩道に変わったというものです。その中の子どものインタビューに「急いでいるのにわざわざ止まってくれてありがとうという気持ちでお辞儀をしています。」というものがありません。道路交通法では歩行者が横断歩道を渡ろうとしたときは車両は一時停止をしなければいけないと定められています。しかし、それを「あたりまえ」とせず、止まってくれたことに感謝するというのが「あたりまえ」という内容でした。動画でインタビューされている横断歩道を渡っている子どもも、車で一時停止をした人もみんなにこやかな顔をしていました。



さて、明日から冬休みに入ります。南郷小学校の登下校には保護者ボランティア、そして白石地区ネットワーク協議会の通学パトロールのみなさんが見守ってくれていること、年末年始にもものが買えること、大雪が降っても除雪がされていること、暖かくなるように暖房機が動いていること…たくさんの「あたりまえ」を見直すチャンスでもあります。「あたりまえ」を見直し、「あたりまえ」に感謝する。そして感謝することを「あたりまえ」とすることで、みんなが「幸せ」を感じる。そんな冬休みであってほしい、そんな子どもたちに育ってほしいと願わずにはられません。